祭日 八月十七日九月十八日

社格 鄉社

所在 須坂村（上高井郡須坂町大字須坂）

明治十二年十月上高井郡小山村平民田中士郎遠藤德右衛門の二名同村八幡社は古く墨坂神社と稱したるにより復號の旨本縣へ願出たれども聞屆き指令有しにより當省の明瞭を請ふ旨直願あり依て數度說諭且つ十二月中本縣へ照會し地方官にて須坂村諏訪社を以墨坂神社とせる徵證たる元須坂藩慶安四年物成帳並に元祿三年免相帳の二簿を回送させ且つ十三年四月願人より差出したる寬文元年吉田家の許狀（墨坂神社とあるもの）に付吉田其義へ照會も發し彼此取調の末同年六月十八日須坂村墨坂神社並小山村八幡社等詮議の旨有之衆庶共に式內未定神社と可心得旨本縣へ達しあり

越智神社

祭神 可美摩遲命

今按新撰姓氏錄越智直石上朝臣同祖神饒速日命之後也とあるによらば越智直の祖神饒速日命を祭れるならん歟されど今姑く社傳に從ふ

祭日 五月六日六月二十一日八月二十七日

社格 鄉社（明細帳に綿內村は社號小內神社鄉社とあり越智神社は幸高村にして村社なり）

所在 綿內村（上高井郡綿內村大字綿內）

今按本社所在一は綿內村小內神社一は幸高村越智神社一は越村越智神社と云ひて一定せず式社考按云現今稱呼による時は幸高村相當の如なれど寬延年間式社定めの時より互に論爭を釀し當時裁決疎漏なるを以て紛紜の說あるなり此社號は綿內村の上申には確證なしと雖も村內に地名現存し寬永六年の古帳に越智山組田方名寄帳と題し今も越智山組と云ひ其地の山を越智山其地の寺を越智山蓮臺寺と云て昔の神宮寺なるも由あり幸高村は社地に越智池あり越智清水と云ありとて一小處の名を證としたるは信じがたく越村の社に至ては式社に非ること幸高村の舊書類にも所見あり村名の越を越智の文字に附會したるなれば據るべきものなし姑く綿內村の社を式內と定むべしと云るに從ふかくて綿內村の神社の舊號越智神社なるを小內神社と稱したるを今又越智神社なりと云ふは疑はしきに似たれど地名の確證あること上に云るが如く且同社上申に寬延式社定の時幸高村にて舊社號越智神社の許可を得たりと聞驚き居しに同郡式內小內神社は未だ何れよりも願出されば右社號を願ひ然るべしと云者あるにより願出しに許可を得たるを以て夫より小內神社と稱したる由述たるにて其事實明瞭なり故今附て後考に備ふ

小內神社（明細帳に小內八幡社鄉社とあり）

祭神 大宜都比賣命

今按本社由緒書に當地近隣諸村は笠原御牧を始め牧場多きを以て牧馬蕃育農桑祐護の爲に此神を齋き祭れる由云傳ふとみえたり古事記須佐之男命の大宜津比賣神を殺し玉へる條に故所殺神於身生物者於頭生蠶於二目生稻種於二耳生粟於鼻生小豆於陰生麥於尻生大豆云々書紀月讀命の保食神を殺し玉へる條に大神之頂化爲牛馬顱上生粟眉上生蠶眼中生稗腹中生稻陰生麥及大豆小豆云々とある謂れによりて古へ貢馬の爲に祭られしものなること著しこの大宜津比賣神は保食神と同神にやあらん

祭日 六月二十一日七月二十七日

社格 鄉社

所在 安源寺村　字長畝　通石原（下高井郡高丘村大字安源子）

今按本社由緒上申に安源寺村舊名小內村と唱へ近鄉地形悉く平地にて四方遙に山を隔て其南方古昔の小內鄉にて一里許の間は全く畝形なるを以て乎宇奈と稱し小內の字を借りたる也北は千曲川南は篠井川を境とし畝の南兩邊村々八ケ村は一圓小內鄉にて當村は其鄉の元村なるか今も畝傳に通行する道を長畝通りと云ひ二百年前の大道也然るに葛尾城主村上氏代々當村安源寺歸依寺なりしより村民多く寺百姓となり小內の名相廢し六川鄉と稱しも寬延三年吉田家にて綿內村の神社へ小內神社號を許可したる時當社神官より本所に出したる願書に慶長年中より御裁許狀頂戴小內神社に相違なき由を記し又式社考按に當社小內神社なることは近隣の村々に於ても異說なしとあるもの證とすべし故今之に從ふ

笠原神社

祭神 少毘古名命

祭日 九月十日

社格 鄉社

所在 上下笠原兩村接界之地（下高井郡平岡村大字笠原）

今按本社舊址は上笠原の東北字天神前と云にあり其東方に接して宜禰畑的場火打田等の字あり舊址の南に散法院と字する畑地あり是舊神宮寺の古跡にして笠原山本誓寺と云りとみえたる證とすべし又今の地に遷りしは寬文十一年洪水によりてのことなる由みえ今現に地名を笠原と稱し文政中當郡神官一同故障あらざるの調印もあれば本社と確定すべきこと云までもなし而るに同郡田上村に於て氏神豐國神社を以て笠原神社に充るの說あり同縣考按に今田上村の神社を詳密考索するに笠原神社は笠原牧の舊址を距ること十町餘に過ざるにても現證あるを田上村は牧地の二十町餘西北にありて其地接續せざれば笠原神社と云もの信じ難しと云るに從ふ

小坂神社

祭神

今按本社由緒書に昔淨御原の朝大和宇陀郡より男坂神の別魂を遷し當地に鎭祭し神田神戶を奉らるゝ由云傳ふとありされど男坂神と云は見當らず上に墨坂神あるを思ふに古事記水垣宮の段に於大坂神祭黑色楯矛とある神を故ありて此に祭れるか又大坂神の神田神戶ありし地などにて